


平成28年度行政事業レビューシート (厚生労働省)

事業名	戦傷病者福祉事業			担当部局庁	社会・援護局		作成責任者		
事業開始年度	昭和47年度	事業終了(予定)年度	終了予定なし	担当課室	援護企画課		鯨井 佳則		
会計区分	一般会計								
根拠法令 (具体的な条項も記載)	-			関係する計画、通知等	平成28年度戦傷病者福祉事業助成委託費の交付について (平成28年3月29日厚生労働省発社援0329第23号)				
主要政策・施策	-			主要経費	恩給関係				
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	戦傷病者やその妻等が体験した戦中・戦後の労苦を次世代の人々に伝えることを目的とする。								
事業概要 (5行程度以内。別添可)	戦傷病者やその妻等が体験した戦中・戦後の労苦に係る資料及び情報を収集し、保存し、展示することにより、次世代にその労苦を伝えることを目的とする「しょうけい館」を運営する。								
実施方法	委託・請負								
予算額・執行額 (単位:百万円)	予算の状況	当初予算	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度要求		
		補正予算	-	-	-	-	-		
		前年度から繰越し	-	-	-	-	-		
		翌年度へ繰越し	-	-	-	-	-		
		予備費等	-	-	-	-	-		
		計	162	157	181	180	177		
	執行額	162	157	181					
	執行率 (%)	100%	100%	100%					
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	25年度	26年度	27年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 28 年度
	平成28年度にしょうけい館の来館小中学校数を前年度以上にする。	しょうけい館の来館小中学校数	成果実績	校	26	27	38	-	-
			目標値	校	24	26	27	-	38
			達成度	%	108.3	103.8	140.7	-	-
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標			単位	25年度	26年度	27年度	28年度活動見込	
	しょうけい館における広報資料の小中学校への送付箇所数	活動実績		箇所	155	60	122	-	
		当初見込み		箇所	418	155	60	122	
単位当たりコスト	算出根拠			単位	25年度	26年度	27年度	28年度活動見込	
	しょうけい館の執行額/しょうけい館の入館者数		単位当たりコスト	円	1,481	1,287	1,229	-	
			計算式	X/Y	158,622,000/107,105	157,122,000/122,067	181,229,000/147,450	-	
平成28・29年度予算内訳(単位:百万円)	歳出予算目	28年度当初予算	29年度要求	主な増減理由					
	遺族及留守家族等援護事務委託費	180	177	証言映像収録費の減					
	計	180	177						

政策評価、経済・財政再生アクション・プログラムとの関係	政策	戦傷病者・戦没者遺族の援護、中国残留邦人等の支援を行うとともに、旧陸海軍の残務を整理すること(Ⅶ-3)								
	施策	戦傷病者、戦没者遺族等に対して、援護年金の支給、療養の給付等の援護を行うこと(Ⅶ-3-1)								
	政策評価	定量的指標		単位	25年度	26年度	27年度	中間目標 - 年度	目標年度 28 年度	
		測定指標 しょうけい館の入館者数	実績値	人	107,105	122,067	147,450	-	-	
			目標値	人	131,437	107,105	134,274	-	147,450	
	本事業の成果と上位施策・測定指標との関係									
	戦傷病者やその妻等が体験した戦中・戦後の労苦に係る資料及び情報を収集し、保存し、展示することにより、次世代にその労苦を伝えることを目的とする「しょうけい館」を運営する。 資料・情報の収集や企画展の実施を通じ、来館を促進し、より多くの人々に戦中・戦後の労苦を知る機会を提供することにより、戦傷病者等の援護に寄与する。									
	経済・財政再生アクション・プログラムとの関係	改革項目	分野:	-	-					
		(第一階層) KPI	KPI (第一階層)		単位	計画開始時 - 年度	27年度	28年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度
			成果実績	-	-	-	-	-	-	-
目標値			-	-	-	-	-	-	-	
達成度			%	-	-	-	-	-	-	
(第二階層) KPI		KPI (第二階層)		単位	計画開始時 - 年度	27年度	28年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度	
		成果実績	-	-	-	-	-	-	-	
		目標値	-	-	-	-	-	-	-	
		達成度	%	-	-	-	-	-	-	
本事業の成果と改革項目・KPIとの関係										
-										
事業所管部局による点検・改善										
国費投入の必要性	項目	評価	評価に関する説明							
	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	本事業は、戦傷病者等の労苦を次世代へ継承することを目的としており、戦後70年を迎えた平成27年度においては、国民の関心も高まったことから、国民や社会のニーズを的確に反映している事業である。							
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○	本事業の目的である戦傷病者等の労苦を次世代へ継承することは国の責務であり、国が実施すべき事業である。							
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。	○	戦傷病者等の労苦を次世代へ継承するため、しょうけい館運営事業は必要であり、優先度の高い事業である。							
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	△								
	一般競争入札、総合評価入札又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。	無	本事業は、「戦傷病者福祉事業助成委託費交付要綱」に基づき、株式会社ムラヤマに委託しているが、委託に際しては、企画競争を採用するとともに外部有識者の意見も参考とし、委託先としてふさわしいか審査した上で決定している。							
	競争性のない随意契約となったものはないか。	無								
	受益者との負担関係は妥当であるか。	○	入場料を徴収していないが、施設の性格に鑑み、妥当と考える。							
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。	○	実績を元に必要最小限の予算計上に努めている。							
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	-								
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○	本事業は、しょうけい館運営事業費となっており、必要費目に限定されている。							
不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-									
その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。	-									
事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。	○	概ね見込みどおりの実績となっている。							
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	○	本事業では、戦傷病者等の労苦を次世代に伝えるための展示施設を運営し、多くの入館者数を集めていることから実効性の高い手段となっている。							
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	○	活動実績は、見込みを上回っている。							
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	○	戦傷病者等の労苦を次世代に伝えるために十分に活用されている。							
関連事業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)	-								
	所管府省・部局名	事業番号	事業名							
	-	-	-							

点検・改善結果	点検結果	本事業については、事業開始以来、一定の入館者実績があり、実効性の高いものとなっている。平成27年度入館者数は、開館以来最多となり、予算規模、支出もそれに見合った適正なものとなっている。今後は、より一層の入館者の増を図るとともに、次世代への継承を視野に入れた事業を行っていく必要がある。				
	改善の方向性	本事業については、運営有識者会議を開催し、事業の方向性や課題について議論しているが、戦後70年を過ぎ、次世代への継承をいっそう進めていく必要がある、それを踏まえた予算措置を行っていく。				
外部有識者の所見						
点検対象外						
行政事業レビュー推進チームの所見						
現状通り	点検結果も妥当であり、戦傷病者等が体験した戦中・戦後の労苦を次世代の人々に伝えるために必要な事業であることから、引き続き、必要な予算額を確保しつつ、適正な執行に努めること。					
所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況						
現状通り						
備考						
関連する過去のレビューシートの事業番号						
平成22年度	457	平成23年度	415	平成24年度	361	
平成25年度	726	平成26年度	724	平成27年度	740	

